

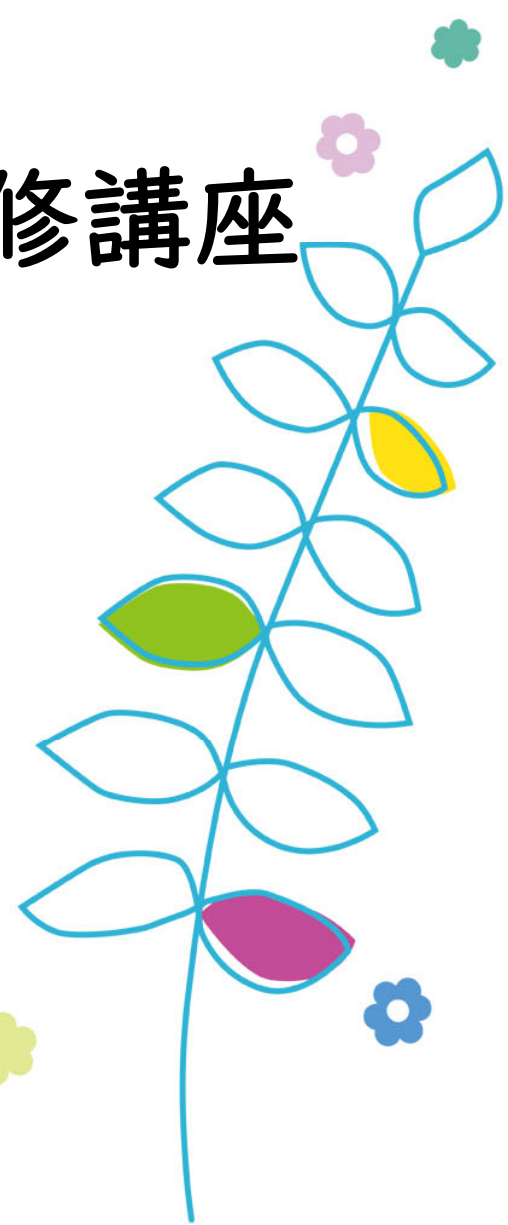
令和7年度

特別支援教育支援員研修講座

第1回



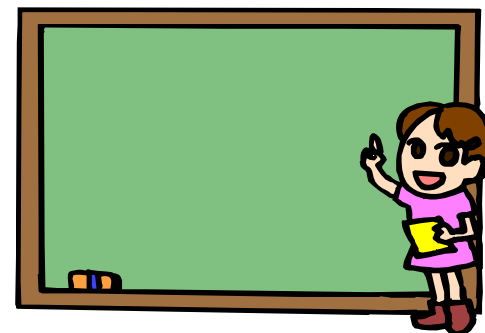
令和7年4月24日
花咲研修室

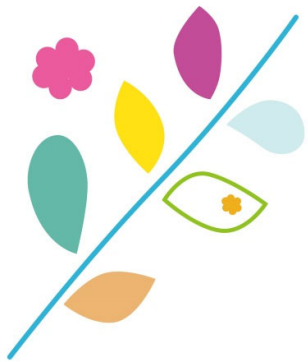




本日の研修講座の内容

- 1 開講式（教育委員会挨拶）
- 2 特別支援教育とは
- 3 横浜市の特別支援教育について
- 4 支援員の業務内容・役割
- 5 情報交換





Ⅰ 開講式

横浜市教育委員会事務局

特別支援教育課 指導主事

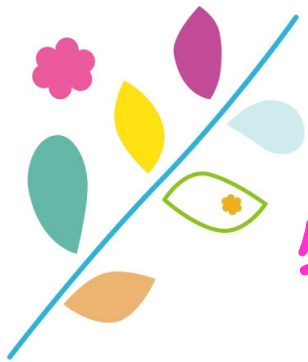
牛島 剛己





2 特別支援教育とは





特別支援教育支援員研修講座とは？

◆ねらい

特別支援教育についての基礎基本の理解を図り、特別支援教育支援員として、小中学校等における支援活動を効果的に行える人材の養成を図る。





特別支援教育支援員研修講座とは？

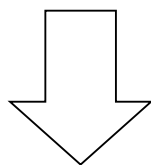
◆対象

- 1 **今年初めて**、横浜市立小中学校等で特別支援教育支援員等のボランティアとして活動している方
- 2 **すでに**、横浜市立小中学校等で特別支援教育支援員等のボランティアとして活動している方
- 3 **今後**、横浜市立小中学校等で特別支援教育支援員等のボランティアとしての活動を考えている方



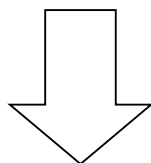
幼児児童生徒一人ひとりの

教育的ニーズを把握



適切な教育や指導及び必要な支援により

持てる力を高める

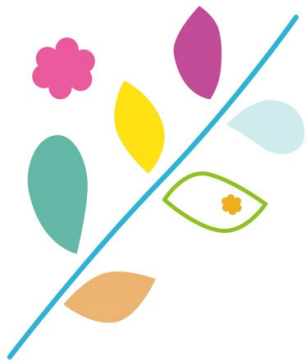


自立や社会参加をめざす



特別支援教育の視点

- ◆対象は学校に在籍をしている全児童生徒
- ◆一人ひとは、みな違っていることが大前提
- ◆困ったときは誰もが支援を受けられる
- ◆まずは、学級や集団の中でどんな支援ができるかを考える（集団の中の存在感）
- ◆特別な支援は、一人ひとりのニーズに合った適切な対応である



令和5年3月：「新たな教育振興基本計画
(令和5年度～9年度)」閣議決定

- 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- 子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実や
- インクルーシブ教育システムの推進による多様な教育ニーズへの対応



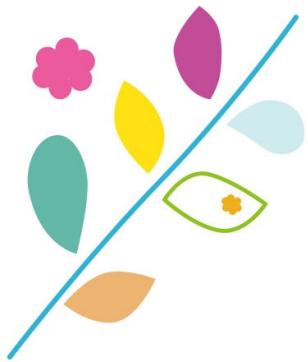
令和5年3月：「新たな教育振興基本計画
(令和5年度～9年度)」閣議決定

- 支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点の重視、地域社会の国際化への対応
- 多様性、公平・公正、包摂性(DE&I)ある共生社会の実現に向けた教育を推進
- ICT等の活用による学び・交流機会、アクセシビリティの向上 など



3 横浜市の特別支援教育 について





ここで問題です！

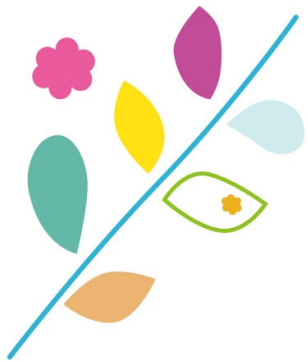
Q1 一般学級(全国)に在籍している特別な支援を必要とする児童生徒は、全体の何%程度だと思いますか？

- ① 1.5% ② 4% ③ 8.8%

※令和4年12月文部科学省調査より

答え

③



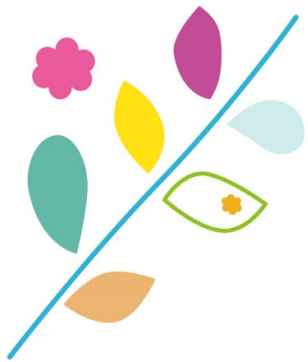
第2問！

特別支援教育は特別なことなので、特別支援学校などの特別な教育の場でしか行われていません。

YES?

NO?

答え NO!



横浜市の特別支援教育

- 一人ひとりの子どもの得意なことを引き出し、可能性を最大限に伸ばす
- 教育的ニーズを把握し、多様な教育の場を用意して一貫した適切な指導や必要な支援を保障
- 様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会を築きその社会で生きる子どもの育成を目指す
- 学齢期における一貫した教育を行い、子どもたちの自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援



第3問！

Q3 横浜市の全児童生徒数は、
どのように変化しているでしょうか？

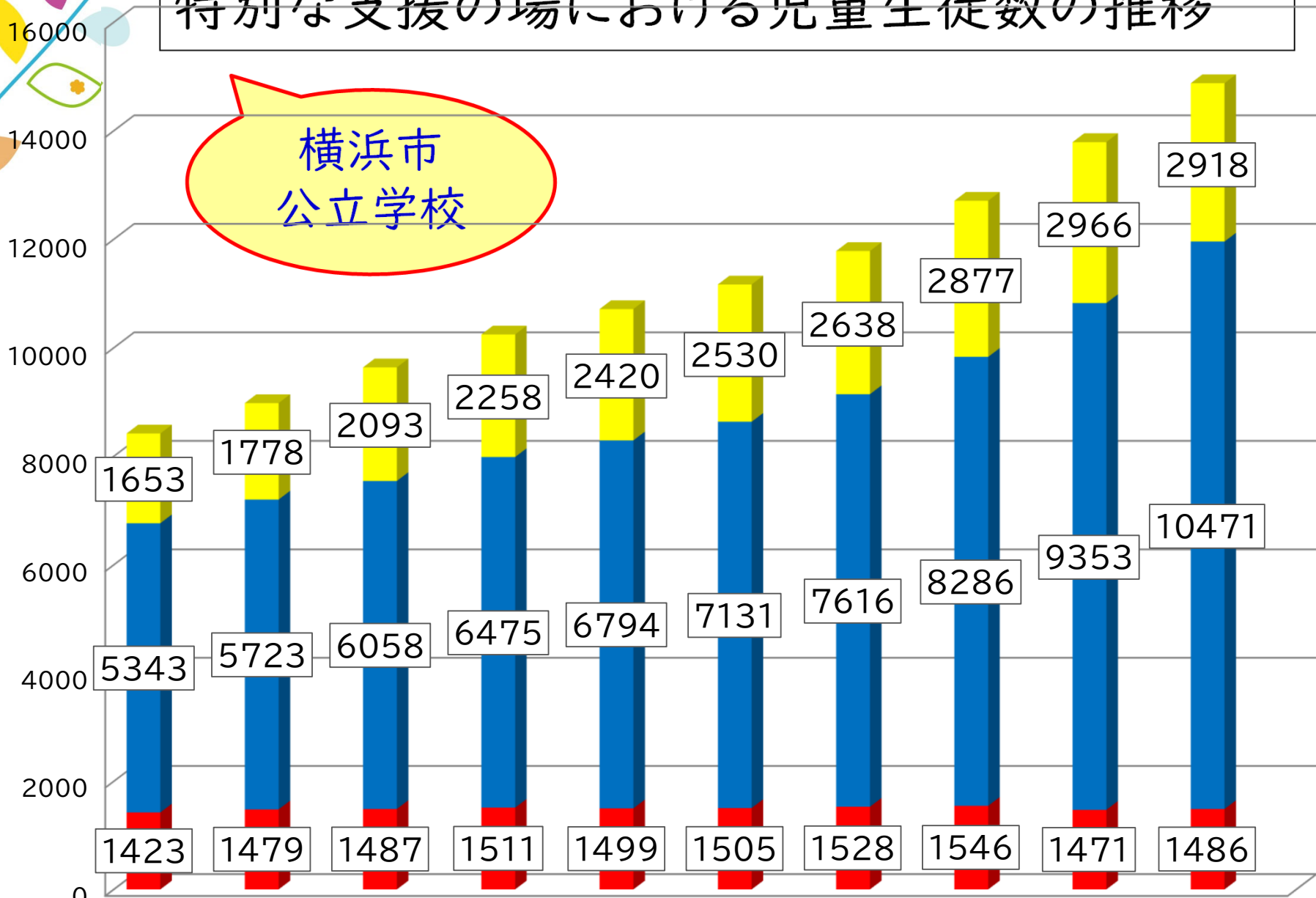
- ①増加傾向 ②横ばい ③減少傾向

Q4 横浜市の特別な支援の場における全児童生徒数は、
どのように変化しているで
しょうか？

- ①増加傾向 ②横ばい ③減少傾向

特別な支援の場における児童生徒数の推移

横浜市
公立学校



■ 特別支援学校 ■ 個別支援学級 ■ 通級指導教室

横浜市内
義務教育

特別支援教育の対象



義務教育段階の児童生徒数 約255,000人

支援学校

視覚障害
聴覚障害
知的障害
肢体不自由
病弱・身体虚弱
0.5%
(1,467人)
※義務教育段階

個別支援学級

視覚障害
知的障害
自閉症・情緒障害

約5%
(12,754人)

一般学級

通級による指導

視覚障害
言語障害
聴覚障害
自閉症・情緒障害
LD・ADHD

1.2%
(3,022人)

LD・ADHD・
高機能自閉症等

6.5%程度*
(約1万7千人)
*2012年度調査

特別支援教室や
T.Tなどの配慮

約6.7%
(17,243)人

横浜市 令和6年度



R7 横浜市特別支援教育の現況

◆市立特別支援学校 13校

(その他 市内にある特別支援学校
県立8校 国立1校 私立2校)

◆個別支援学級設置率100%・小学校(336校) ・中学校(144校)・義務教育学校(3校)

◆通級指導教室設置校

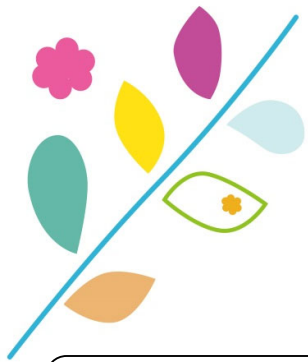
小学校 16校 中学校 4校

ろう特別支援学校 1校

盲特別支援学校 1校

*令和8年度に小・中1校ずつ新設

◆特別支援教室 小・中・義務教育学校全校



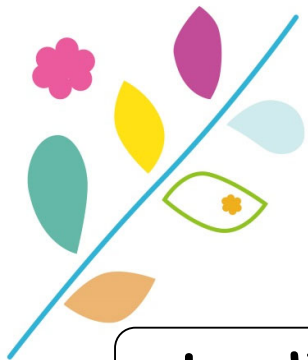
個別支援学級での指導

学級種 : 知的障害学級
自閉症・情緒障害学級
弱視学級

学級編制: 1クラス 児童生徒8人まで

指導 : 学級担任

**⇒特別支援教育支援員の
支援場面あり**



通級による指導

- 方式：在籍校とは異なる
特別な指導の場（通級指導教室）
に通う（週に1回～2週に1回程度）
- 種別：情緒障害通級指導教室
難聴・言語障害通級指導教室
弱視通級指導教室
- 対象：一般学級に在籍し、心身に軽度な
障害があり、障害に応じた特別な
指導が必要な児童生徒



特別支援教室での指導

対象 : 一般学級・個別支援学級の
児童生徒（在籍学級を離れて、
週1コマ程度学習する）

場所 : 普通教室、特別教室、
相談室など

指導者 : 教員が指導

⇒特別支援教育支援員の
支援場面あり



一般学級での指導

- 1学級35人（小学校全ての学年 R7～）
- 基本的には、在籍している学級集団で学習し学校生活を送る。
- 学級全体・班やグループ・ペア・個別、などの多様な指導形態をとることがある。
- 学級担任、教科担当が指導の中心
- チーム・ティーチングや少人数指導を行うこともある。

⇒特別支援教育支援員の支援場面あり

～特別支援教育支援員研修～



体験をしましょう

なにが見えますか？わかるを体験



なにが見えますか？わかるを体験



ディスレクシア

- メモ

たいことばちをもってきて

- メモ

たいことばちをもってきて

- メモ

たいことばちをもってきて



4 支援員の業務内容・役割

(特別支援教育支援員制度と
研修講座について)





「特別支援教育支援員」とは？

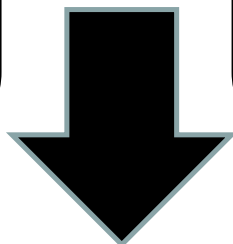
学校生活支援員

- ・生活面への支援
- ・安全配慮



学習支援員

- ・学習支援



特別支援教育支援員

- ・学習支援
 - ・生活面への支援
 - ・安全配慮
- ※有償ボランティア



特別支援教育支援員が行う業務は？

1 校内支援

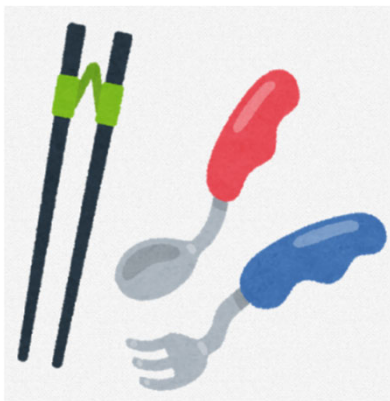
- ① 集団学習場面における学習支援
- ② 食事、移動、着替え、排泄等の支援
- ③ 学習場面等における
安全配慮に関する支援

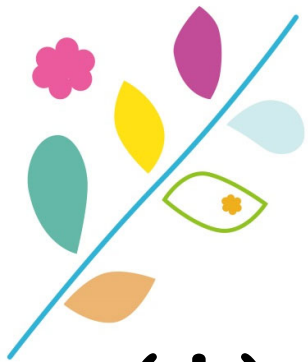
2 校外支援

校外学習及び宿泊行事における
移動等の支援

※医療行為に関する支援は行うことができません。

特別支援教育支援員が支援する児童生徒は？





- (1) 肢体不自由があり車椅子使用で、乗降、移動、姿勢保持等のための介助が頻繁に必要な場合**
- (2) 肢体不自由があり歩行困難なため、転倒防止等の対応が頻繁に必要な場合**
- (3) 肢体不自由や知的障害があり、食事、移動、着替え、排泄等の指導・支援が頻繁に必要な場合**

- (4) 低学年一般学級に在籍している児童で、
発達障害があり、特性に応じた学習活動への
働きかけが頻繁に必要な場合**
- (5) 発達障害等により危険な行為及びパニック
を起こす状況が継続しており対応が頻繁に
必要な場合**
- (6) 病弱・身体虚弱のため、安全面での配慮
が頻繁に必要な場合。**
- (7) その他、教育長が特に必要と認めた場合**

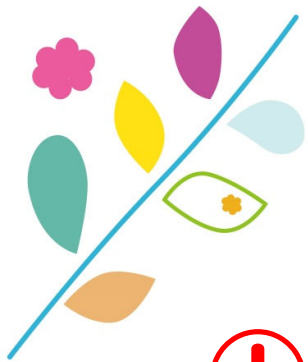


特別支援教育支援員に求められる視点・姿勢

子どもとの信頼関係

子どもは自分の安全を、
特別支援教育支援員に託しています。

- ①見る → 子どもの様子をよく見ます
(安心しているとき・不安なとき)
- ②知る → 子どもの得意なこと、苦手なことを知ります
- ③理解する → こんな理由で力が発揮できる、
発揮できないを理解します
- ④信頼関係を築く → 子どもを理解した上で
かかわりを深めます



① 介助（支援）内容の確認

あらかじめ担任と介助（支援）内容について丁寧に確認する。さらに必要があれば本人とも確認する。

② 介助（支援）をする際に声をかける

突然手を差し出されて驚いてしまう子どももいます。適切に声をかけることで子どもは安心して安全を託します。



特別支援教育支援員に求められる視点・姿勢

できることに注目した支援

「何ができない」より「何ができるか」の視点

◎ できない部分を支援する(介助)

◎ できるようになったら、

少しずつ支援を減らす(スモールステップ)

担任と
連携します

自分で
できた!

またやって
みよう!

⇒ 自信・意欲・自立



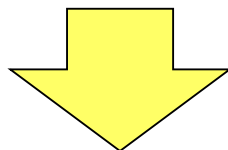
特別支援教育支援員に求められる視点・姿勢

児童生徒のニーズ(目標)に応じた支援

Q：今、大切なのはどちら？

(例 「体育の更衣」)

- ①自分で着替えることができることが大切？
- ②友だちと一緒に学習を始めることが大切？



* 担任・保護者との共通理解

* 本人の納得



特別支援教育支援員に求められる視点・姿勢

安全は最優先

1 子どもの様子で気になることは、
すぐに担任に！

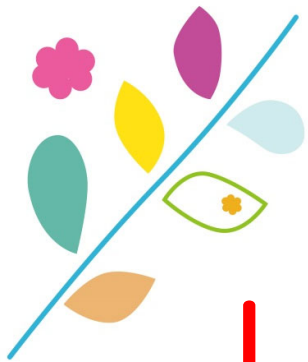
~~「たぶん大丈夫だろう」~~ 「もしかしたら・・・」

2 慣れからくる油断は大敵！

基本に忠実に・・・車いすのブレーキ

遠足などいつもと違う条件下での支援

★事前に学校と十分に打合せを

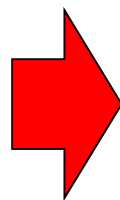


特別支援教育支援員「確認とまとめ」

1 プライバシーを守りましょう

知ったこと

知られたくないこと



個人情報の保護

子ども・保護者

との信頼関係

2 いつでも、安全を最優先に

○気になることがあったら、すぐに担任へ報告を

○普段から、対応方法を確認しておく

シミュレーション（事故・体調の変化など）



○無理は禁物

迷ったら、担任に判断してもらおう。

○学校（担任）との連携を密に

3 子どもとの信頼関係の構築を

○子どもの思い →子どもが納得する支援

○保護者の思い →保護者が望む支援

○担任の思い →担任が求める支援

～特別支援教育支援員研修～



体験をしましょう

これから、私がいくつか数字
を言います。

「はい」と言ったら、
私が言ったとおりの
順番で、みなさん頭の中で
言ってください。



① 4 1 9

② 5 2 8 0 1

③ 2 6 1 0 9 0 5



今度は「はい」と
言ったら、逆の順番
で、言ってください。

① 7 0 8

② 4 1 9 6

③ 2 9 5 1 8

- ・ 順番に覚える
→ 言語的短期記憶

- ・ 逆順に覚える
→ 言語性ワーキングメモリ

これから、私が動物を3種類
言います。

「はい」と言ったら、私が
言ったとおりの順番で、みな
さんが頭の中で言ってくださ
い。



① ブタ



② クマ



③ ウサギ



次は、私の質問に答えてください。



質問の内容は

- ①ブタはイヌより大きいですか
- ②クマはウサギより小さいですか
- ③最初に出てきた動物は何ですか

- ・ 順番に覚える
→ 言語的短期記憶

- ・ 質問の内容を考えて答えを出す
→ 言語性ワーキングメモリ

- 順番に覚える

 - 言語的短期記憶

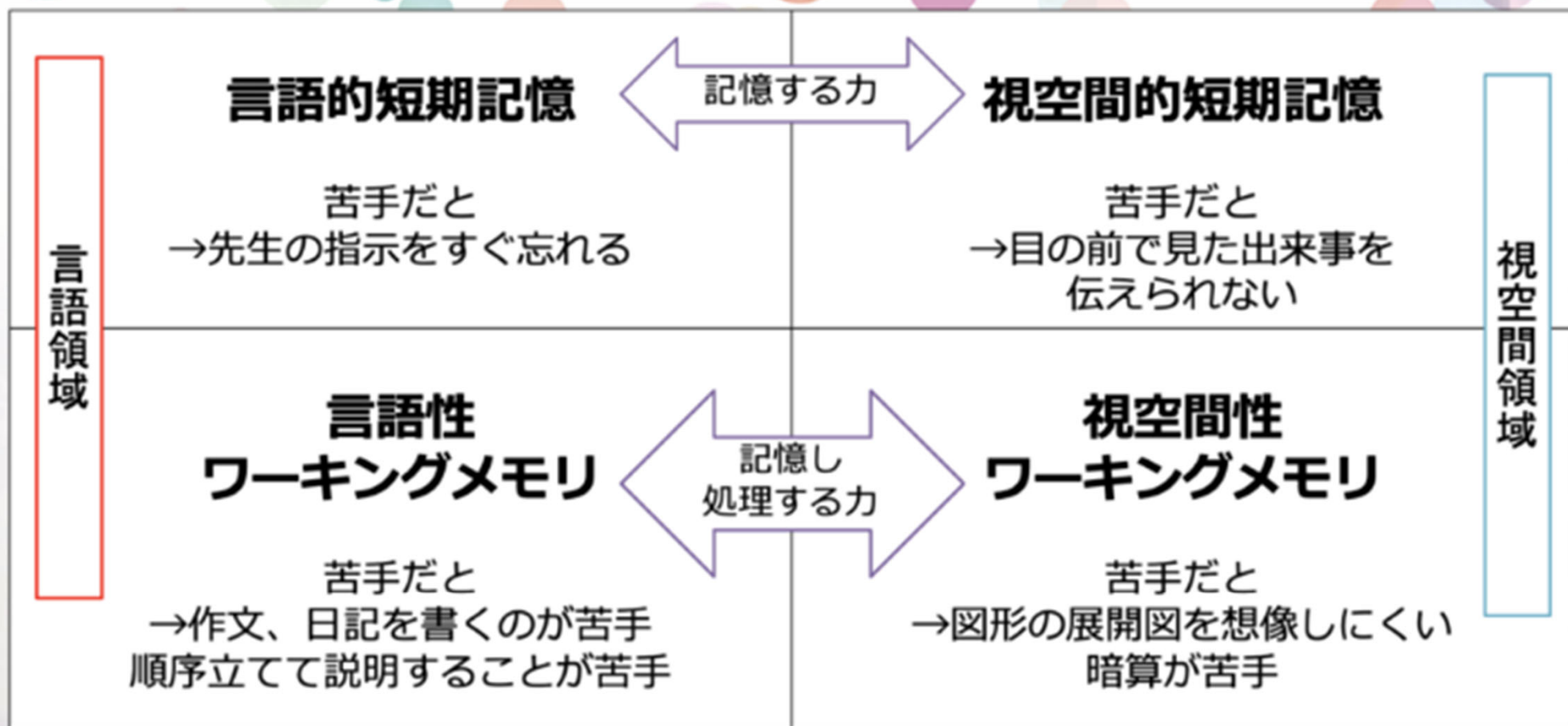
 - 視空間的短期記憶

- 傑出の処理を覚える答者を出す

 - 言語性ワーキングメモリ

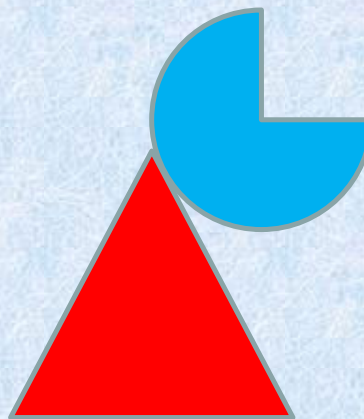
 - 視空間性ワーキングメモリ

ワーキングメモリと短期記憶

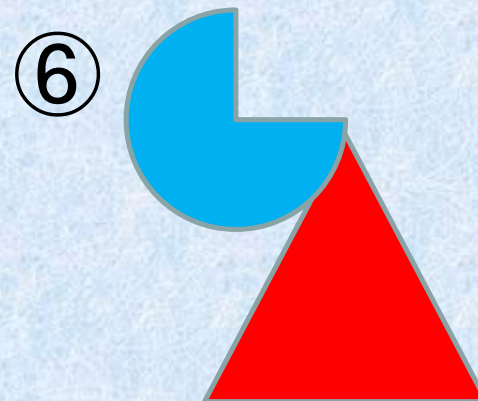
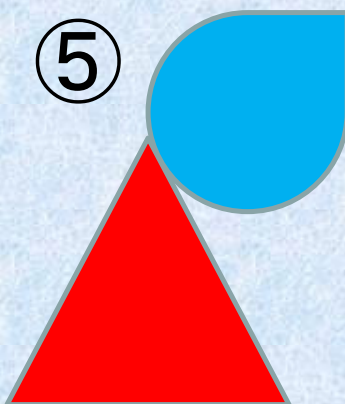
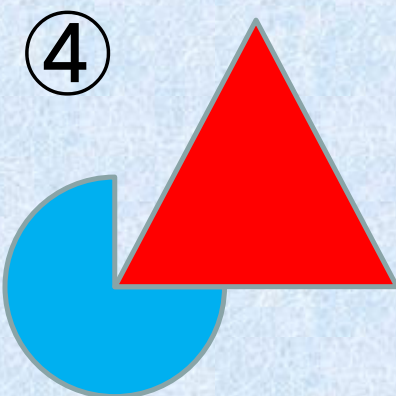
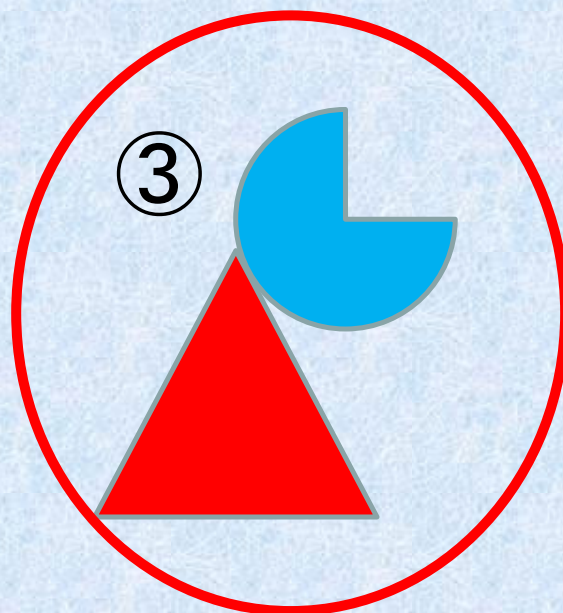
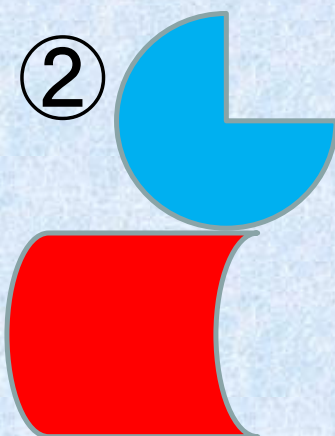
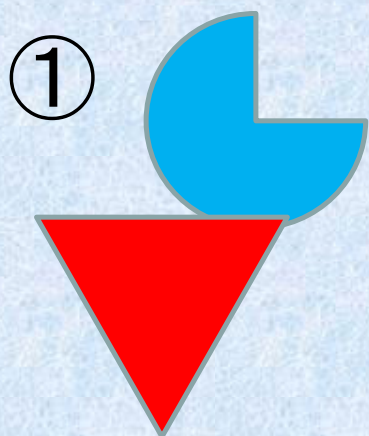


湯澤.河村,2013 (前田編)

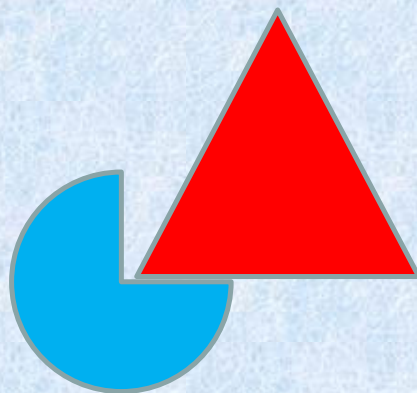
下の図をよく見てください



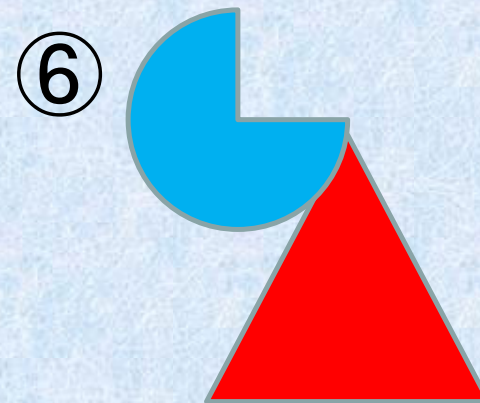
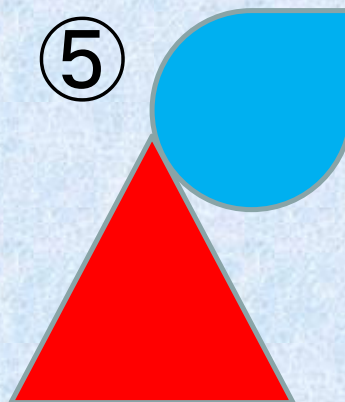
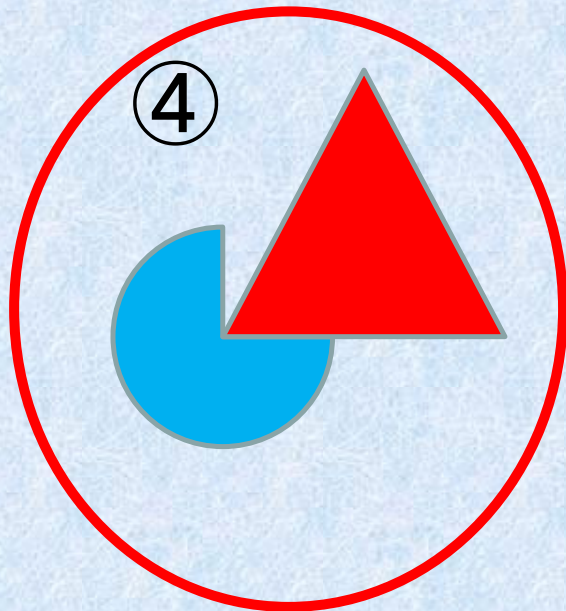
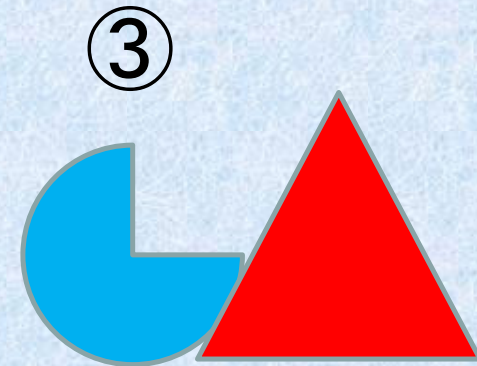
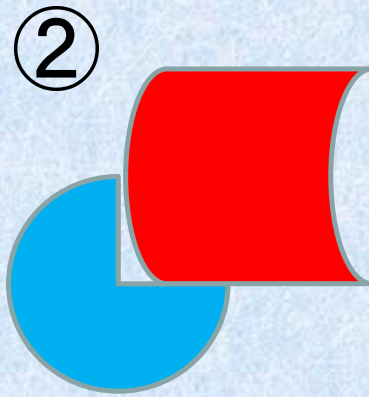
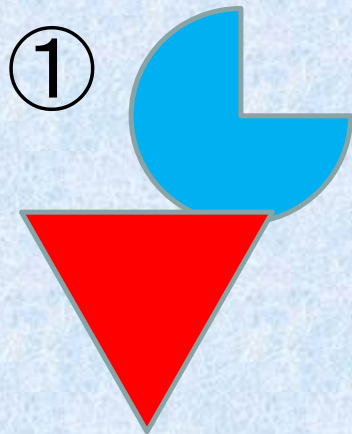
前の図と同じものは何番ですか？



下の図をよく見てください



前の図と同じものは何番ですか？

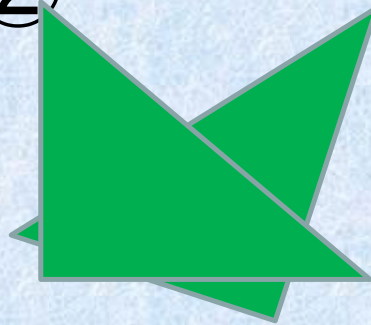


①と②は回転して同じになりますか？

①



②



①と②は回転して同じになりますか？

①



②

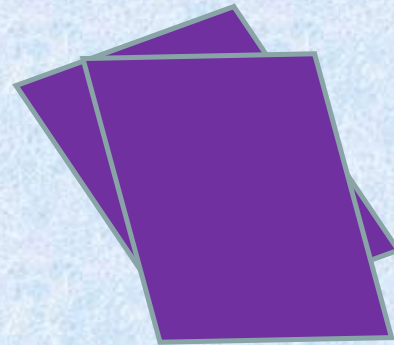


①と②は回転して同じになりますか？

①

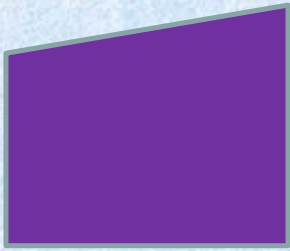


②

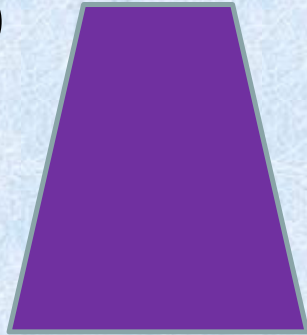


3つの問題で出てきた図形は
どれですか？

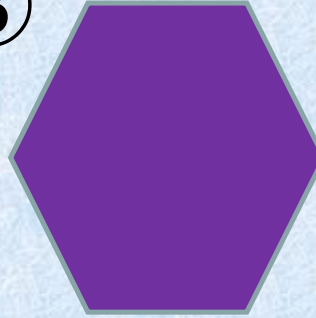
①



②



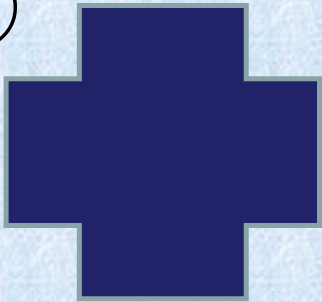
③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



覚えやすい方法はどれ？


























- 口頭の説明を聞く
- 文字の説明を読む
- 図や絵で見て理解する
- お手本の真似をする
- 書いたり体を動かして記憶する

体験してみましよう

最後にもうひとつ体験してみましよう。

これから見せるものを、同じように、配った紙の同じ場所にかいてください。1分間時間をとります。

最初は小さい方のます目を使います。

体験してみましよう

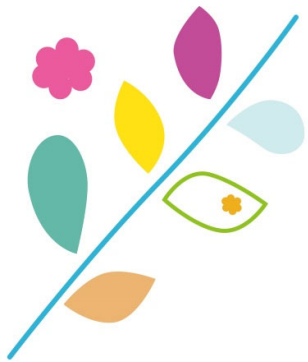
次は大きい方のます目を使います。
1分時間をとります。

☆	□	?	☆	☆
?	☆	□	□	☆
☆	?	□	?	□
□	☆	▽	?	☆
□	?	☆	□	?

体験してみましよう

最後は、配ってある紙の上側に書いてあるものを、下側のます目に同じように書いてください。時間は1分です。

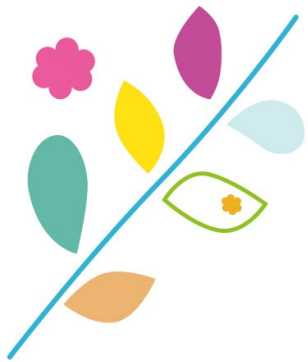




5 情報交換

①お近くの方と → ②全体で

- 1 現在行っている支援
(うまくいった支援、難しい支援など)
- 2 経験して伝えたいこと(経験の浅い方へ)
経験者に聞きたいこと
- 3 その他



次回予定 5月22日(木)

横浜市立二つ橋高等特別支援学校

9:30 受付

内容:主な障害の特性の理解①

肢体不自由児の理解と支援

